

# 発掘調査成果

◎入口部分に南北方向の土塁を確認しました。  
土塁西側裾部には石垣を構築していました。

## 石垣の概要

- 規模 ・検出長約 5.8m。  
さらに南北に延びている。  
・最大2段（60 cm分）残存。  
石垣はさらに高く積まれていたと推定。
- 石材 ・砂岩（加工の痕跡が少なく自然石に近い）  
・最大のもので幅 73 cm × 奥行 62 cm × 高さ 40 cm （推定 200 kg）
- 構造 ・石垣背面には裏込石として川原石を使用。  
奥行約 1 m。

## ◎遺物

約 100 点出土しました。盛土の中からは黒野城跡と同時期に近い戦国時代の土師器皿や瀬戸美濃産陶器等が見つかりました。



写真1 柵形虎口石垣検出状況（南から）



写真2 柵形虎口石垣及び裏込め（西から）



写真3 柵形虎口石垣（最大のもの、西から）



写真4 柵形虎口石垣（西から）

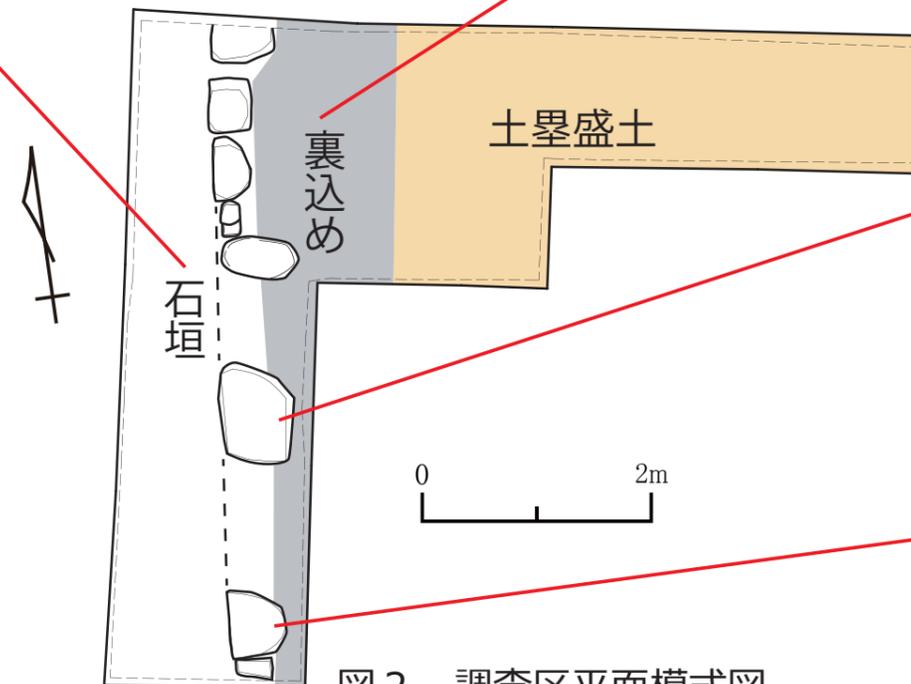


図2 調査区平面模式図

- ◎石垣と土塁の構築方法
- ①築城時の造成（50～60 cmの盛土）
  - ②石垣・土塁を構築
  - ③石垣の基底部前面に50～60 cmの盛土・整地を行い、根固めを行う。

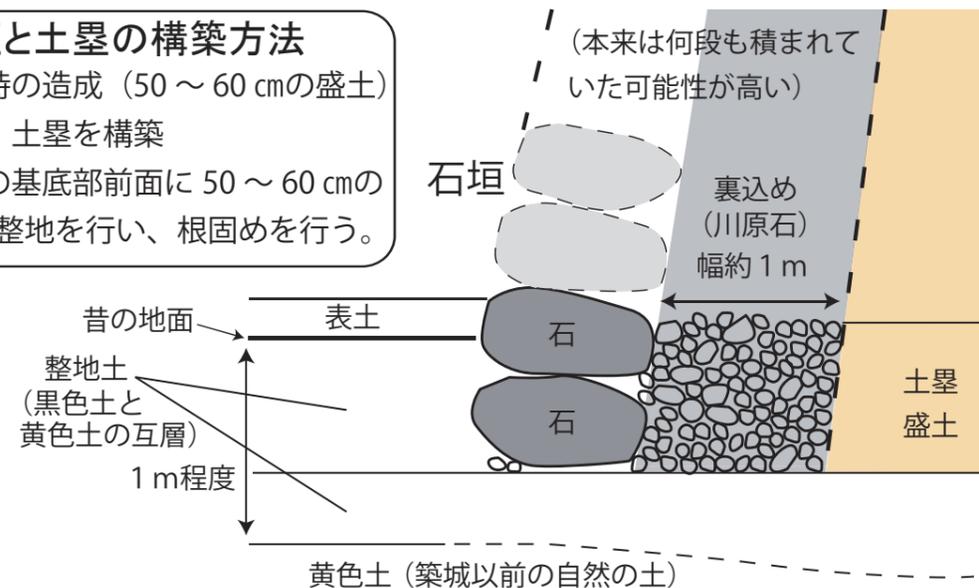


図3 土塁断面模式図

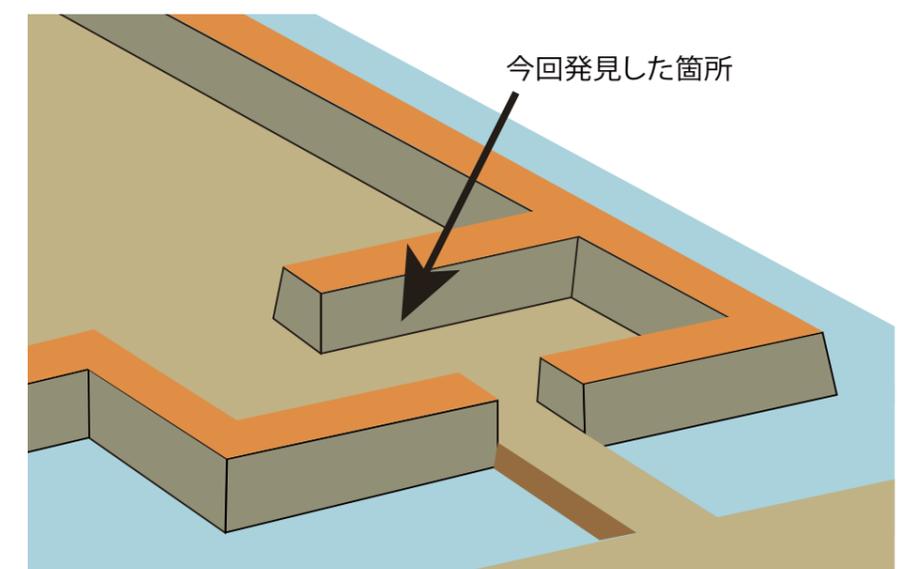


図4 虎口復元図



図1 調査の位置と土塁想定範囲